

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

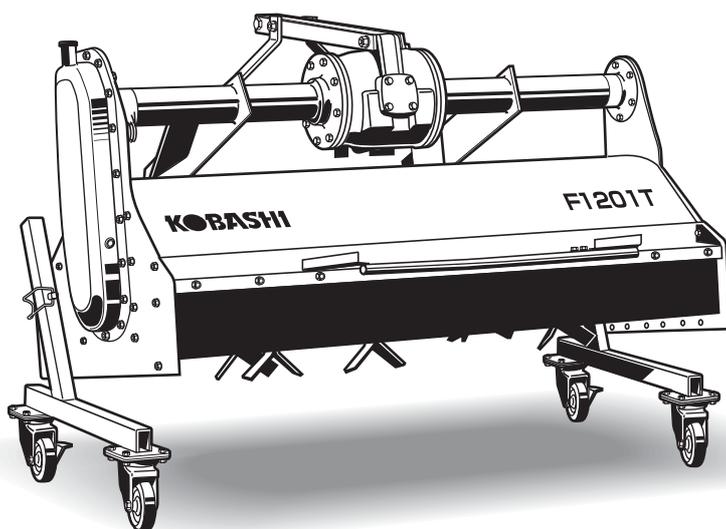
以上

小橋工業株式会社

コバシ残幹子ヨツパー

取扱説明書

F1201T



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびはコバシ残幹チョッパーをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、残幹チョッパーの性質を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、残幹チョッパーを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただき、事故のない安全な作業をしてください。

▲ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

残幹チョッパーの使用目的・使用範囲

この残幹チョッパーはたばこの残幹処理や休耕田・果樹園の雑草処理作業用です。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目次

▲ 安全に作業するために1	作業前の点検13
1 はじめに1	1 各部のボルト・ナットのゆるみ13
2 作業の前に1	2 ジョイントへのグリスアップ13
3 トラクタへの着脱1	3 ギヤーケースのオイル量13
4 防護カバー類の取付け2	4 チェンケースのオイル量14
5 装着時の前後バランスの確認2	5 爪の破損・ボルトのゆるみ14
6 トラックへの積み・降ろし2	6 ジョイントのロックピン14
7 一般走行3	7 空転、暖機運転14
8 圃場への出入り3	移動・圃場への出入り15
9 作業をしているとき3	上手な作業の仕方16
10 作業中の点検4	1 作業前の準備16
11 トラクタを止めるとき4	2 作業手順16
12 その他4	3 作業深さの調整17
▲ 安全ラベルの取扱い5	タバコ刃の取付け18
サービスと保証について6	1 タバコ刃の本数18
各部の名称7	2 タバコ刃取付方法18
残幹チョッパーの組立8	保守・点検19
トラクタへの装着9	保管・格納20
1 装着前の準備9	主要諸元21
2 トラクタへの装着10	トラクタ別装着表22
3 装着後のトラクタとの調整11	点検整備一覧表26
4 トラクタからの取外し12	異常診断一覧表27
	用語解説29

▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出いただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



1-7 共同作業がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

▲安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。
- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。
- 3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、又作業機入力軸溝にはまったか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



4 防護カバー類の取付け

- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認
作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たく

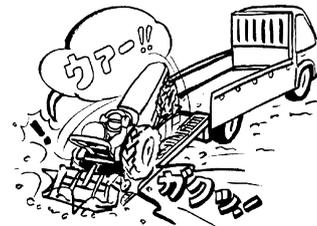
なる場合もありますので注意してください。
又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。
- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。
- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。
- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。
- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 作業機がトラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

7 一般走行

7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱等に引っかけて事故の原因になります。



7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

7-5 作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをして走行してください。

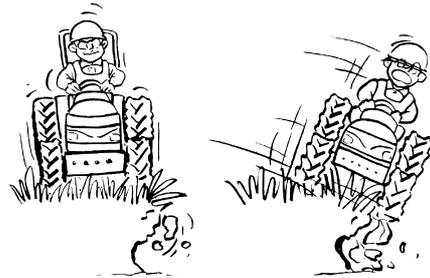
7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広い場合、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむ箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。

7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようあらかじめ体調を整えてください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散ないように調節してください。



- 9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれているこ

とを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



- 10-2 点検のために外した安全カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



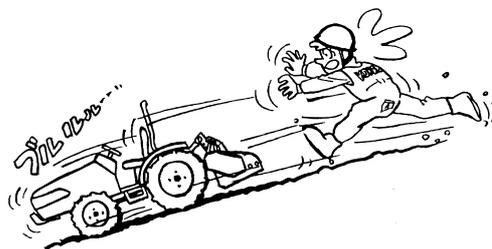
- 10-3 ラジエータ、マフラは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 その他

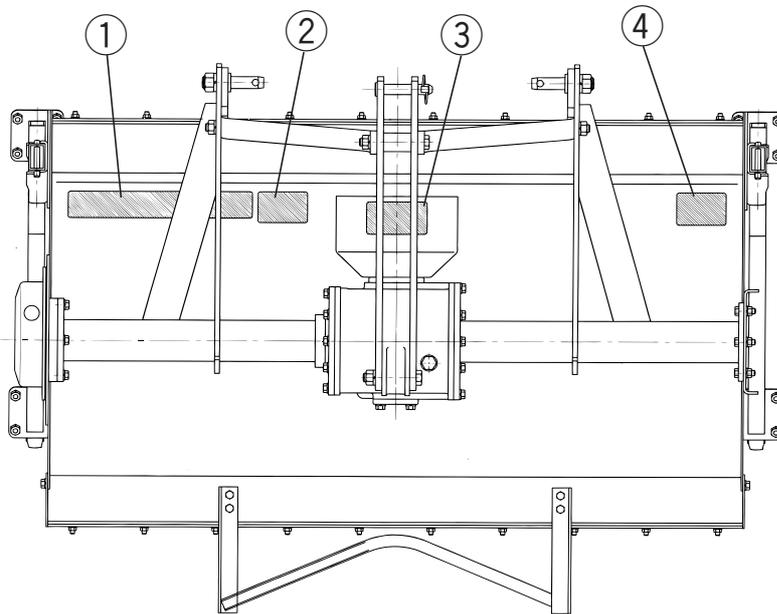
- 12-1 作業機指定のPTO回転速度を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

- 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシ残幹チョッパーには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



① コードNo.9993689

<p>注意</p> <p>使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間に立たないでください。 2. エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 3. 作業機の上に人を乗せないでください。 4. 点検整備時は、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。また、絶対に作業機の下にはいつて作業をしないでください。 5. ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。 	<p>警告</p>  <p>転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように十分な前部ウイトを取付けてください。</p> <p>作業機にアタッチメントを装着する時は、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。</p>	<p>警告</p>  <p>ロータリ回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。</p>
---	---	---

② コー I No.9992127

危険



- エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。
- 巻き込まれて死傷する恐れがあります。

9992127

③ コー I No.9992126

危険



- セフティカバーは、常に装着して使用してください。
- 巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992126

④ コードNo.9992090

危険



- 作業時は必ず周囲に人がいないことを確認してください。
- 飛散物により人がケガをするおそれがあります。

9992090

サービスと保証について

1 保証書について

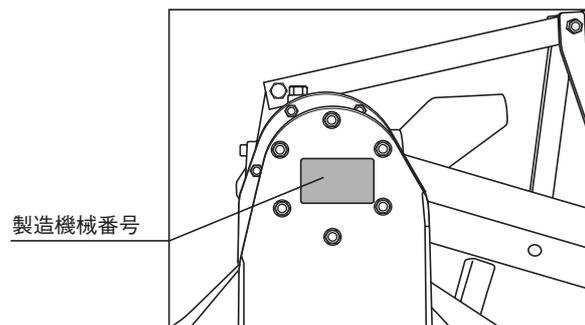
コバシ残幹チョッパーには保証書が添付してあります。保証書はお客さまが保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



補修用部品の供給年限について

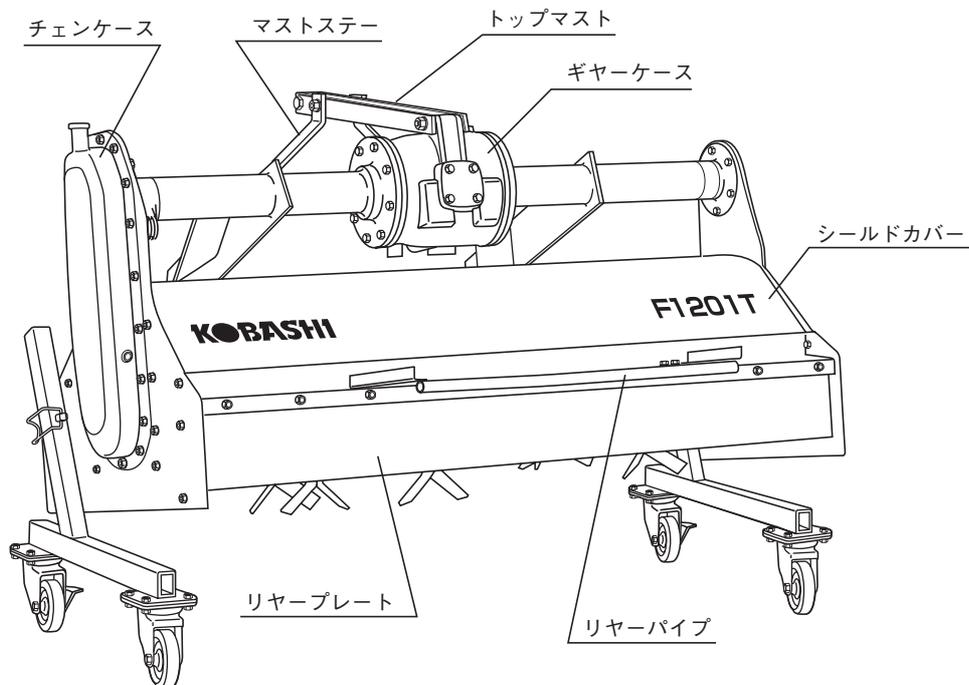
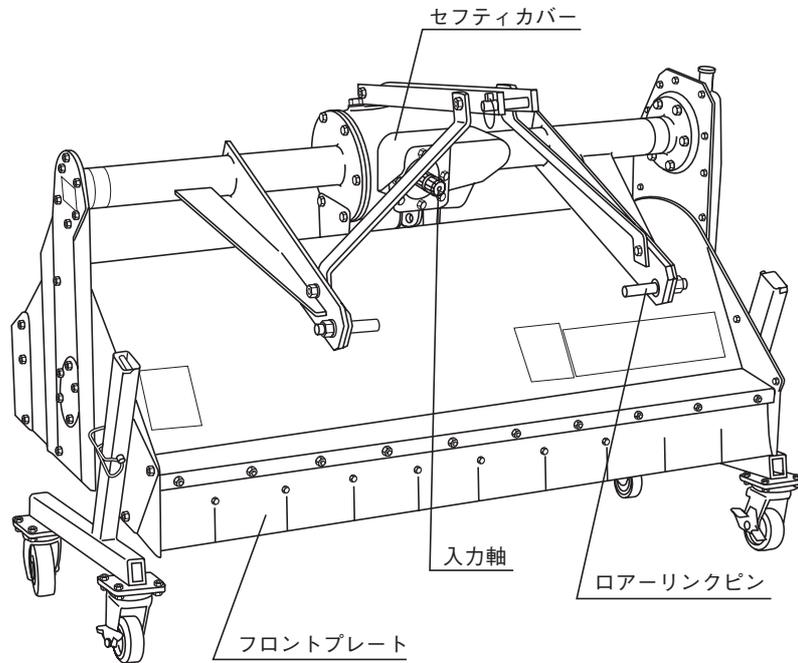
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称



残幹チョッパーの組立

1. 開梱

残幹チョッパーは、木枠梱包されていますので開梱してください。

▲ 注意

開梱する時は、丈夫な手袋を着用して行ってください。

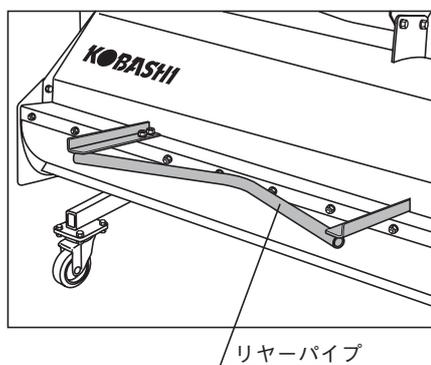
木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2. 下記の部品が本体と分かれていますので、組付けてください。

部 品 名	数 量	摘 要
リヤーパイプ	1	
トップマスト	1	
マストステー	2	
ジョイント	1	

① リヤーパイプの取付け

リヤーパイプをM10×20のボルト4本を使用して取付け、締め付けてください。

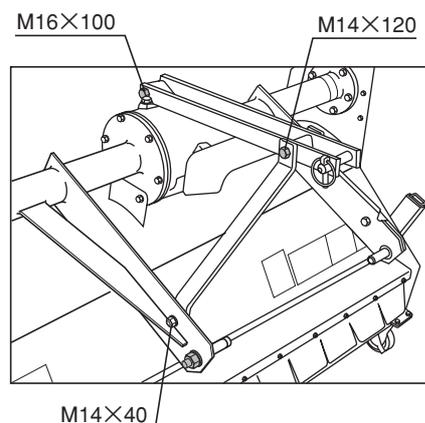


② トップマスト、マストステーの取付け

トップマストをギヤケース上の取付穴にM16×100のボルトで取付けます。

次に、トップマストと、マストステーをM14×120のボルトで取付けます。

M16×100、M14×120とM14×40 2本の計4本のボルトを締め付けてください。

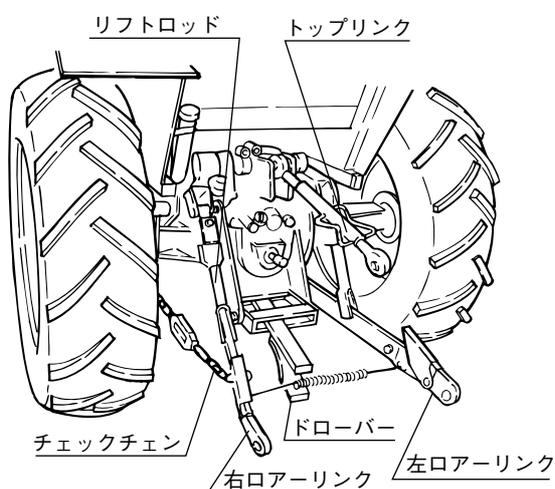


トラクタへの装着

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もしトラクタに特殊3点リンク式のローターを装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドロバーがジョイントに干渉する場合は、ドロバーの位置を変えるか取外しをしてください。



取付位置は、本書のトラクタ別装着表（P22～P25）を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2. ジョイントの取付準備

取扱上の注意

長過ぎるジョイントを装着しますとトラクタのPTO軸と作業機の入力軸を突き上げて破損させます。

又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足して、チューブが破損します。

お願い

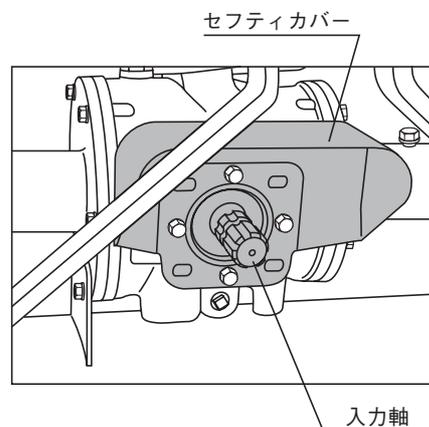
標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合がありますのでトラクタ別装着表（P22～P25）を参照の上交換してください。

標準セットのジョイント S76 は、長過ぎた場合でも切断しての使用はできませんので、適正なジョイント長さの物と交換してください。

3. 入力軸セフティカバーの取付け

⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



② トラクタへの装着

⚠ 警告

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は、互いに合図しあって作業をしてください。

1. 作業機の取付け

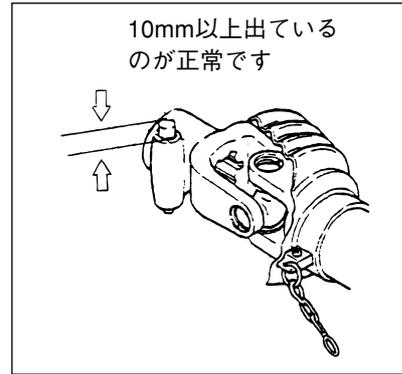
- ① トラクタと残幹チョッパーの中心が一致するように、トラクタを後退し、左側ロアーリンクをロアーリンクピンに取付けます。次に右側のロアーリンクをリフトロッドの長さを調整して、ロアーリンクピンに取付けます。
- ② トップリンクを取付けます。

⚠ 警告

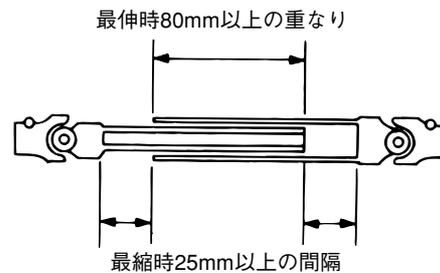
トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

2. ジョイントの取付け

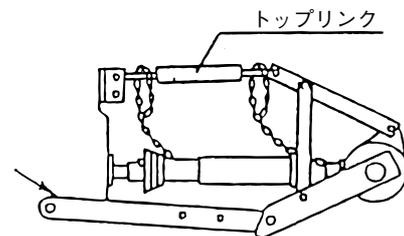
- ① ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めをします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。
ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。



- ② 徐々に油圧を上げて、ジョイントが縮んだ状態でも、軸を突かないことを確認してください。
- ③ 油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。



ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱい下げてもチェーンが緊張しないようにたるみを持たせてください。

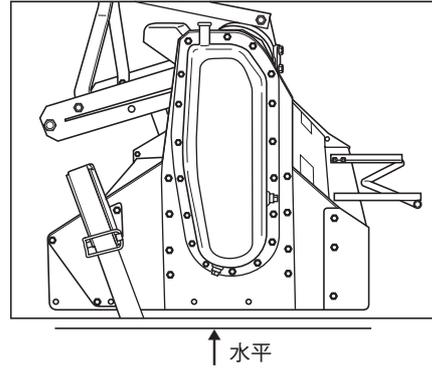


⚠ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
4. トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。



▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3. リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4. ジョイントの異音について

シングルジョイントの場合、トラクタPTO軸と作業機の入力軸とが平行に近いほど異音は少なくなります。

③ 装着後のトラクタとの調整

1. チェックチェンの調整（左右の振れ）

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。

2. トップリンクの調整（前後の傾き）

トップリンクの長さは、トラクタ別装着表（P22～25）を参照の上、合わせてください。装着表にない場合は、装着時、作業機のシールドカバー下面が水平になるようにトップリンクを調整してください。

取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても、振動や、音がでない位置にポジションコントロールレバーのストップをセットしてください。

4 トラクタからの取外し

▲ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、装着のためのスペースが十分とれるところで行ってください。

- ① トラクタのポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げ、接地させます。

▲ 警告

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

- ② ジョイントセフティカバーのチェンを外し、次に、ジョイントのノックピンを押しながらジョイントを外してください。
- ③ トップリンクを外してください。
作業機が安定するまで、トップリンク長さを調整してください。
トップリンクに力がかからなくなり、ネジが軽くなったところで、トップリンクを外してください。
- ④ ロアーリンクを外してください。
トラクタのチェックチェンをゆるめてください。
リフトロッドの長さを調整して、ロアーリンクを外してください。

作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、また、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です、下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

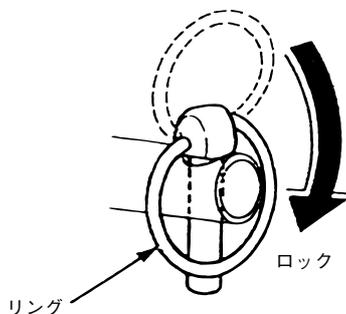
▲ 警告

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機を地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

1 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。

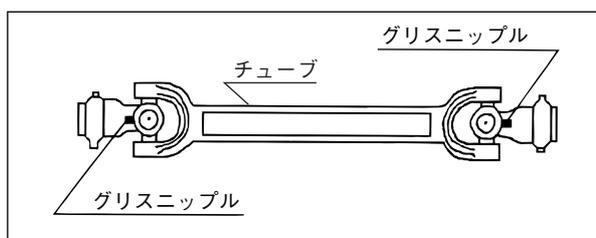
又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



2 ジョイントへのグリスアップ

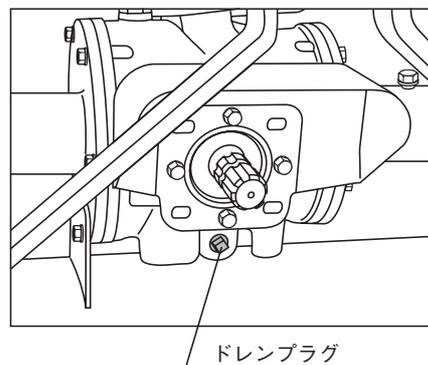
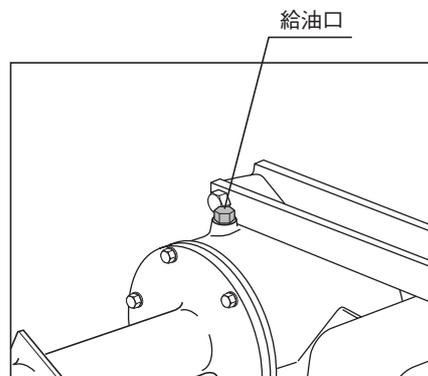
ジョイントの各部にグリスアップしてください。

- ① グリスニップル
- ② チューブ



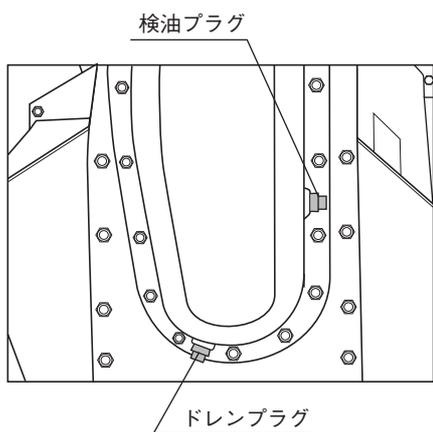
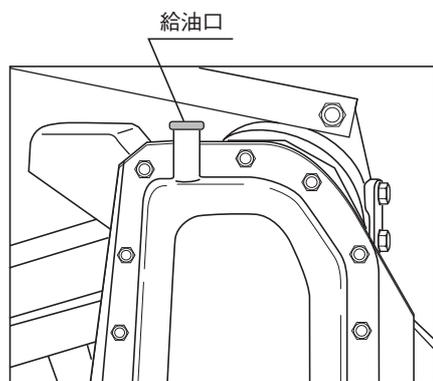
3 ギヤークースのオイル量

本機を水平に降ろして、キャップにオイルゲージがついておりますので、ネジ込まないでゲージの切り込み線内にオイルがあるか確認します。入っていない場合は、ギヤオイル90番の補給が必要です。



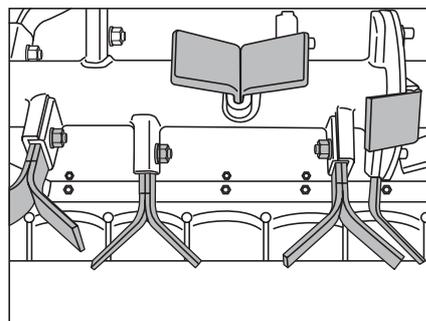
4 チェンケースのオイル量

チェンケース後部のオイル量点検プラグを緩め、オイルがにじみ出るか確認します。にじみ出ない場合は、プラグを外し、ギヤーオイル90番を点検プラグ穴からオイルが出る程度補給してください。



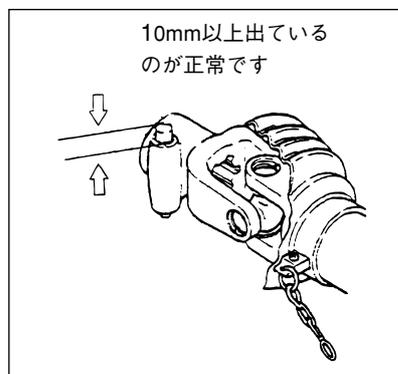
5 爪の破損、ボルトのゆるみ

爪の破損及び取付ボルトのゆるみがないか確認して、交換、増し締めを行ってください。爪の破損は異常振動の原因になりますので、特に注意してください。



6 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側、作業機側のノックピンを確認してください



7 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。又、暖機運転を5～10分行ってください。

移動、圃場への出入り

▲ 警告

1. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。又、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
2. トラックへの積み込み、坂の登りにトラックの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
3. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
4. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

上手な作業の仕方

① 作業前の準備

病気、害虫に侵された残幹は、手で抜き取り、圃場外で乾燥させ、産業廃棄物として処理してください。

▲ 警告

1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には補助作業員や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。飛散物によりケガをするおそれがあります。
2. 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は必ず、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 畦畔での作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。
4. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

▲ 警告

1. 逆転PTOでの作業はしないでください。
2. PTO回転速度は540r.p.m以下で行ってください。
3. 土地条件に応じた作業速度、PTO軸回転速度、深さを選んでください。
尚、石の多い圃場では、作業速度は遅くし、PTO軸回転速度も下げて使用してください。

② 作業手順

本機の作業は、後進作業→前進作業の往復作業を行います。

1. 後進作業

ローター後方のガードパイプに残幹をあてがい、車速1～3km/hで畦際まで作業します。

取扱上の注意

1. 1行程目に前進作業を行うと、トラクタの下部にタバコヤニが付着し、洗車しても落ちません。
2. 手で抜根して畦の上に残幹を置いて後進作業すると、ローター幅より残幹が外に出て粉碎されません。

2. 前進作業

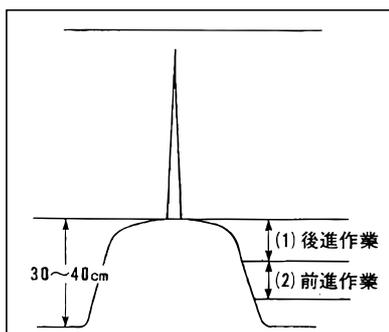
畦際まで後進してくるとそのまま前進して畦中の根も粉碎、同時に畦くずしも行います。

取扱上の注意

残幹とローターの中心が合わないと粉碎精度が落ちます。

▲ 注意

夏期作業をするのでチェーンケースが高温発熱しますが異常ではありません。
さわるとやけどをするおそれがありますので、手を触れないよう十分注意してください。



3. 野菜の残さ処理（ブロッコリ等）

1行程より前進作業を行います。

（ローター耕うんと同様）

3 作業深さの調整

作業深さの規制は、トラクタの油圧ポジションコントロールレバーで行ってください。

タバコ刃の取付け

1 タバコ刃の本数

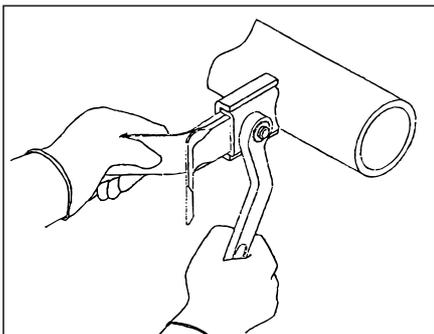
品名	規格	数量
タバコ刃		44
取付ボルト SW, Uナット	M12×35 P1.5 8T	44

◆タバコ刃の摩耗状態を点検し、摩耗のはげしい時には、本機の爪は両刃になっていますので、片方が減ってももう片方が使用できますので、入れ替えするか、新しい爪と全部交換してください。

2 タバコ刃取付方法

⚠ 警告

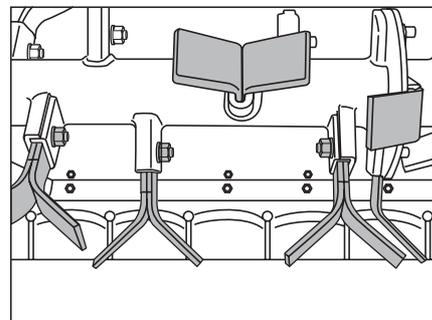
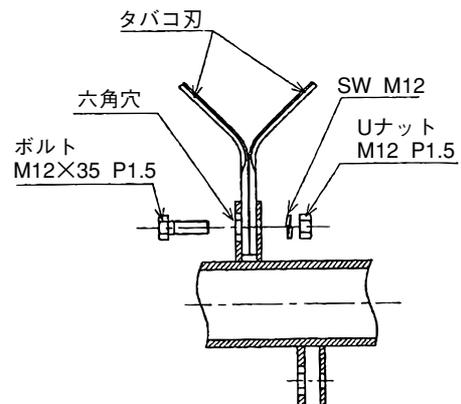
1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした所で行ってください。
2. トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
3. ボルト、ナットを緩めたり、締め付ける場合は、19のメガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
4. 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。



取扱上の注意

1. 爪の配列を誤りますと、異常な振動が発生したり、又、仕上がりが悪くなったりしますので注意してください。
2. 摩耗のはげしい爪と新しい爪を一緒に使用すると異常振動が発生しますので、注意してください。
3. 爪はしっかりと締め付けてください。
新しく交換した場合は、緩みやすいので作業1時間で増し締めをしてください。

ホルダの六角穴がある側からボルトを入れ、タバコ刃を取付けてください。



保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

▲ 警告

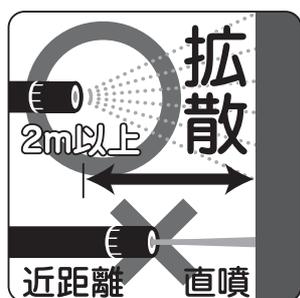
トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

▲ 注意（高圧洗車機）

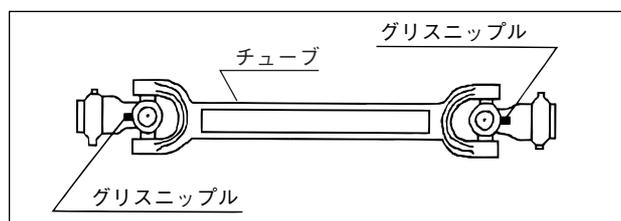
機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例
- 1) シール・ラベルの剥がれ
 - 2) 樹脂類（カバーなど）の破損
 - 3) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



2. グリスの給油

- ① ジョイントは分解して、スリーブのかみ合い部分にグリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルの部分にも適量注入してください。



- ② トラクタのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。

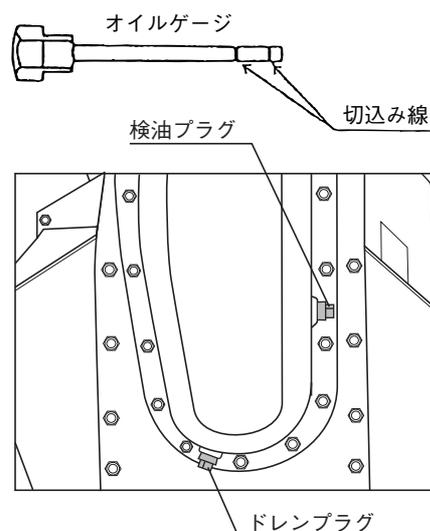
3. 給油と交換

下記の基準で交換してください。

点検項目	種類	オイル量	交換時間	
			1回目	2回目
ギヤーケース	ギヤーオイル #90	2.0 ℓ	50時間	150時間毎
チェンケース	ギヤーオイル #90	1.3 ℓ	50時間	150時間毎
サポートハウジング	グリス	適量	150時間毎	

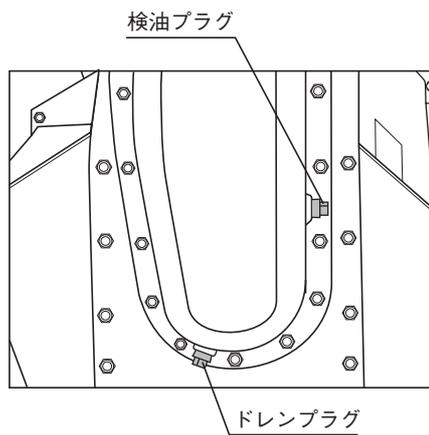
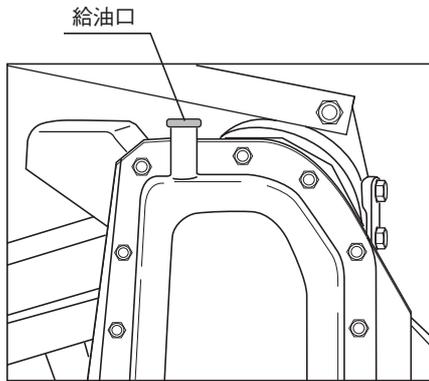
① ギヤーケースのオイル交換の仕方

- (1) ドレンプラグを外してオイルを出します。
- (2) ドレンプラグをギヤーケースに締めつけます。
- (3) ギヤーオイル90番を給油口から規定量まで入れてください。（オイルゲージはネジ込まないでゲージの切込み線内にオイルがあるか確認します。）

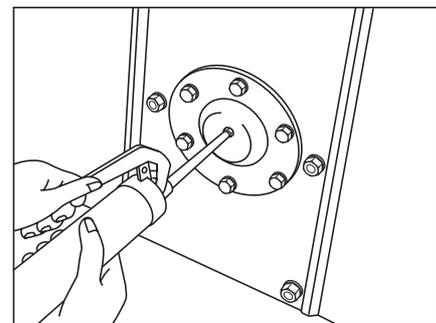
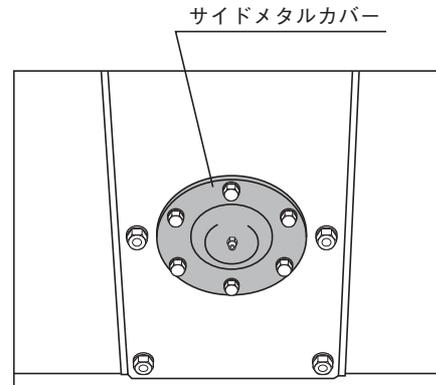


② チェンケースのオイル交換の仕方

- (1) ドレンプラグを外してオイルを出します。
- (2) ドレンプラグをチェンケースにシールテープを巻き、チェンケースに締めつけます。
- (3) ギヤーオイル90番を給油口から規定量まで入れてください。



- ## ③ サポートハウジングのグリース交換の仕方
- サイドメタルカバーを外してグリースを交換してください。



4. オイルシールの組み替え

整備等の目的で、ギヤケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴム付座金パッキン、液状ガスケットと交換してください。オイル漏れの原因になります。

液状ガスケットは、スリーボンド1208相当品を使用してください。

保管・格納

1. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
2. 格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。

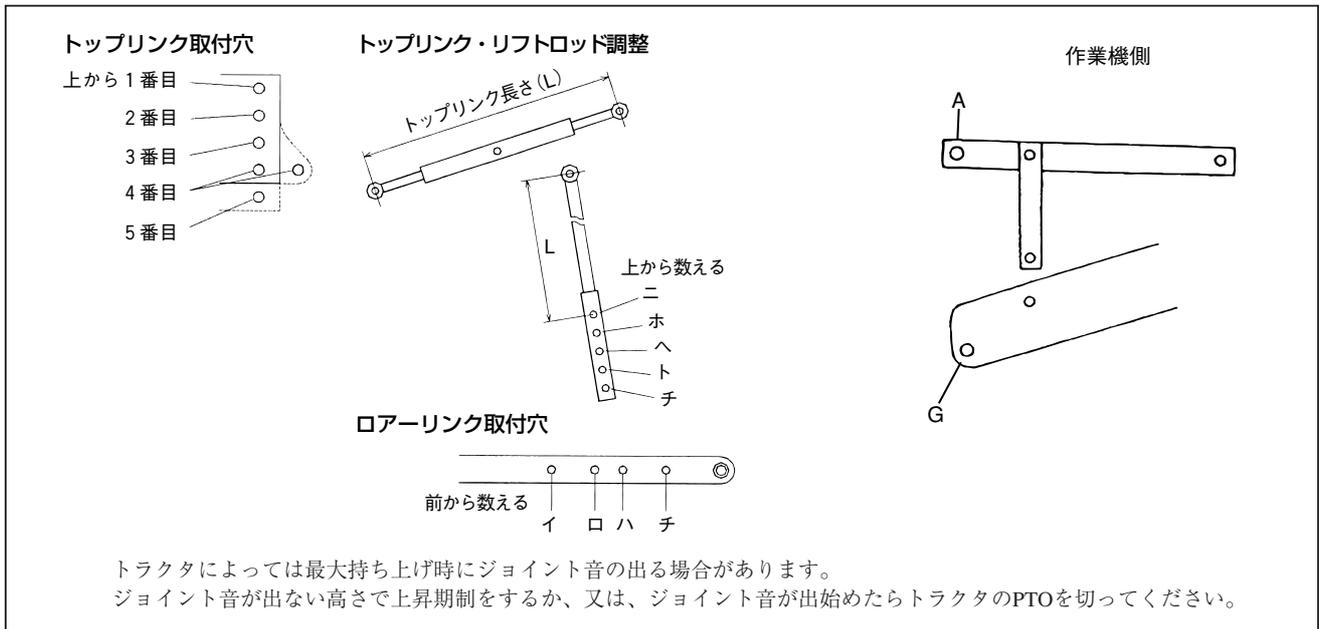
主要諸元

型 式		F1201T
駆 動 方 法		サイドドライブチェーン駆動
機 体 寸 法	全 長 (mm)	905 (1078) (スタンド装着時)
	全 幅 (mm)	(1405) (♪)
	全 高 (mm)	845 (989) (♪)
機 体 重 量 (kg)		175 (194) (♪)
適 応 ト ラ ク タ KW (PS)		11.0~25.7 (15~35)
標 準 作 業 幅 (cm)		120
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1~3
装 着 方 式		3P直装 0・1形
軸 回 転 速 度 (PTO 540r.p.m)		756
耕 深 調 節		油圧ポジション

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

トラクタ別装着表

※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



トラクタ型式	トラクタ側				作業機側			ジョイント 切断寸法(mm) S76	備考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	ローア リンク ピン 取付向		
KB 16・18・20	1	ロ	ホ	590	A	G	内		
KB 16・18・20PC3	2	ロ	へ	550	A	G	内		
GB 160・180・200	1	ロ	へ	590	A	G	内		
GB 160・180・200PC3	1	イ	ホ	580	A	G	内		
GB 16・18・20 B 92	1	ロ	ホ	590	A	G	内		
Bb 260	1	ロ	ニ	570	A	G	外		
KT 210(J)・230(J)・250 T 240D	1	イ	ホ	580	A	G	外		
KT 250J・280	1	イ	ホ	580	A	G	外		
KT 280J・300(J)	1	イ	ホ	580	A	G	外		
KT 210PC・230PC KT 250PC・280PC T 240DPC	1	イ	ホ	580	A	G	外		
KT 20・24J・27	1	イ	ホ	580	A	G	外		
KT 20J・22(J)・24	1	イ	ニ	580	A	G	外		
KT 27J・30(J)	2	イ	ホ	580	A	G	外		
KT 20PC・24PC・27PC	1	イ	ホ	570	A	G	外		
GT 19(J)・21(J)・23(J) GT 26, T-22 T 200・220・240	1	イ	ニ	590	A	G	外		
GT 26J・30(J)	1	イ	ニ	560	A	G	外		
KL 210・230・330T KL 21(J)・23(J)・25 KL 33-T	1	イ	ニ	600	A	G	外		
KL 250 L 270D・300D KL 25J・25HT・25NC KL 27・28ロプス KL 270PC・25PC	1	イ	ニ	640	A	G	外		

トラクタ型式	トラクタ側				作業機側			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	ロアーリ ンクピン 取付向	S76	
KL 270・280 L 330D	1	イ	ニ	710	A	G	外		
KL 300・310・330・340 L 330D, L 34H KL 27J・28Q KL 30・31・33・34 KL 330PC・33PC	1	イ	ニ	710	A	G	外		
GL 201・221・241 GL 200・220・240 GL 19・21・23	1	イ	ニ	600	A	G	外		
GL 241J・261・277・281 GL 301E・321E GL 240J・260・268 GL 280ロブス, GL 277PC GL 300ES・320ES GL 23DJ・25・26・27	1	イ	ニ	630	A	G	外		
GL 281Q・281J GL 301・321・337 GL 280Q・280J GL 300・320・338 GL 27DJ・29・32・33	1	イ	ニ	710	A	G	外		
L1-195・215・185・205 L1-18・20	1	イ	ニ	640	A	G	外		
L1-235・255・225・245 L1-22・24	1	イ	ニ	640	A	G	外		
L1-235DJ	1	イ	ニ	640	A	G	外		
L1-275DJ(V)	1	イ	ニ	710	A	G	外		
L1-275・265・26	1	イ	ニ	700	A	G	外		
L1-295・315・325 L1-285・28	1	イ	ニ	700	A	G	外		
L1-325ドラフト	2	イ	ニ	690	A	G	外		
L1-345・33	1	イ	ニ	670	A	G	外		
EF 116・118・120・122	1	イ	ニ	560	A	G	内		
AF 114・116・118・120	3	イ	ニ	560	A	G	内		
AF 150・160・170・180 AF 15・16・17・18	3	イ	ニ	600	A	G	内		
EF 220・222・224 EF 226・228・230	2	イ	ニ	610	A	G	内		
AF 218・220・222・224 F 190・210・230	1	イ	ニ	570	A	G	内		
AF 226, F250	2	イ	ニ	590	A	G	内		
US 261・301・(361) US 324・328・330・334 RS 240・270・300・330 RS 24・27・30・33	1	イ	ニ	570	A	G	外		
EF 324	1	イ	ニ	570	A	G	外		
EF 326(V)・328(V)	1	イ	ニ	660	A	G	外		
EF 330(V)・334(V)	1	イ	ニ	720	A	G	外		
EF 330H・330A・334A	2	イ	ニ	640	A	G	外		H:ハウス仕様 A:淡路仕様
AF 322・324・326	1	イ	ホ	580	A	G	外		
AF 328・330	1	イ	ホ	660	A	G	外		
AF 333・(336)	2	イ	ホ	740	A	G	外		
AF 333S・(336S)	1	イ	ニ	710	A	G	外		S:佐賀仕様
AF 210・230・250 AF 22・24	1	口	ニ	580	A	G	外		
AF 270・290 AF 26・28(J)	1	イ	ニ	670	A	G	外		
AF 310・330・350	2	イ	ニ	750	A	G	外		

トラクタ型式	トラクタ側				作業機側			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	ロアーリ ンクピン 取付向	S76	
AF 30・33	1	イ	ニ	770	A	G	外	T86に交換	
AF 30R・33R・35R	1	イ	ニ	750	A	G	外		
AF 33J・35J	1	イ	ニ	780	A	G	外		
F(X) 215・235・255 F(X) 20・22・24	1	イ	ニ	630	A	G	外		
F(X) 265 FX 30S	1	イ	ニ	670	A	G	外		
FX 285・26	3	ロ	ホ	600	A	G	外		
FX 305・335・28・32	2	イ	ホ	590	A	G	外		
FV 200・220 D 208・228	1	イ	ニ	570	A	G	内		
FV 230・250・270 D 238・258・278	1	ロ	ホ	560	A	G	内		
FV 280・310 D 288・318	1	ロ	ホ	600	A	G	外		
FV 330, D 338	1	イ	ホ	610	A	G	外		
THS 16・18・20	1	イ	ニ	550	A	G	内		
TH 18(B)・20(B) TF 153・173・193 TF 15・17・19	1	イ	ニ	510	A	G	内		
TH 22(B)・24(B)・25(B) TH 26(B) THS 22・24・26	1	イ	ホ	500	A	G	内		
TF 223・243	1	ロ	ニ	540	A	G	内		
TF 21・23・26	1	ロ	ホ	540	A	G	内		
AT 23・25	1	イ	ニ	530	A	G	外		
AT 27・30・33	1	イ	ニ	560	A	G	外		
TG 233A・253A・273A TG 21-A・23-A・25-A	2	イ	ニ	520	A	G	内		
TG 233・253・273 TGS 25 TG 21・23・25	2	イ	ニ	560	A	G	外		
TG 293・313・333 TGS 29・30・33 TG 27・29・31・33	2	イ	ニ	570	A	G	外		
TK 21・25・29・33	1	イ	ニ	520	A	G	外		
TA 207・227・247・263 TA 267・287・317 TA 215・235・262 TA 255・275・312 TA 210・230・250・270	1	イ	ニ	540	A	G	外		
TG 353, TA 337・357 TA 295・325・345 TA 290・320・340	1	イ	ニ	530	A	G	外		
GS 160・180・200 GS 16・18・20	3	イ	ニ	550	A	G	内		地上高不足の為 装着不可能
GS 210・230・250 GS 21・23・25	1	イ	ニ	570	A	G	内		
MT 161・181 MTZ 18・20・200 MT 160・170・190	3	イ	ニ	580	A	G	内		地上高不足の為 装着不可能
MT 201・221・241 MTZ 21・23 MT 200・220・240 MT 165・185・205 MT 225・245	1	イ	ニ	580	A	G	内		
GOZ 24・26・28 GOZ 30・32	3	イ	ニ	690	A	G	外		
MTM 250・270・300 MTR 250・270・300	1	イ	ニ	600	A	G	外		

トラクタ型式	トラクタ側				作業機側			ジョイント 切断寸法(mm)	備考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	ロアー リンクピン 取付向	S76	
GO 26・28・30・32・34 MT 231・251・271 MT 291・311・331	1	イ	ニ	650	A	G	外		
MT 226・246・266 MT 286・306・336 MT 225・245・265	1	イ	ニ	590	A	G	外		
MT 265L・285・305	1	イ	ニ	650	A	G	外		
GX 34, MT 338・(368)	2	ロ	ニ	600	A	G	外		
MT 337・(367) MT 335・(365)	1	ロ	ニ	590	A	G	外		
CTX 160・180・200	1	ロ	ホ	590	A	G	内		
CTX 16・18・20	1	ロ	へ	590	A	G	内		
CX 160・180・200	1	ロ	ホ	590	A	G	内		
TZ 210(B)・230(B)・250	1	イ	ホ	580	A	G	外		
TZ 250B・280	1	イ	ホ	580	A	G	外		
TZ 280B・300(B)	1	イ	ホ	580	A	G	外		
TZ 20(B)・22(B)・24	1	イ	ニ	580	A	G	外		
TZ 24B・27	1	イ	ホ	580	A	G	外		
TZ 27B・30(B)	2	イ	ホ	580	A	G	外		
NZ 195(B)・215(B)・235(B) NZ 265	1	イ	ニ	590	A	G	外		
NZ 265B・305(B)	1	イ	ニ	560	A	G	外		
NTX 210・230 NTX 21・23・25 NTX 245	1	イ	ニ	600	A	G	外		
NTX 250・27・28ロプス NTX 275	1	イ	ニ	640	A	G	外		
NTX 270・280	1	イ	ニ	710	A	G	外		
NTX 300・310・330・340 NTX 28Q・30・31・33 NTX 34	1	イ	ニ	710	A	G	外		
NX 201・221・241 NX 200・220・240 NX 19・21・23	1	イ	ニ	600	A	G	外		
NX 261・277・281ロプス NX 301Z・321Z NX 260・280ロプス NX 25・27	1	イ	ニ	630	A	G	外		
NX 281Q・301・321 NX 337, NX 280Q NX 300・320・338 NX 29・32	1	イ	ニ	710	A	G	外		
TX 161・181・201	1	ロ	へ	590	A	G	内		
TX 160新・180・200	1	ロ	ホ	590	A	G	内		
TX 213・233 TX 212・232・252	1	イ	ニ	600	A	G	外		
TX 253・272	1	イ	ニ	640	A	G	外		
TX 273	1	イ	ニ	710	A	G	外		
TX 303・333・302・332	1	イ	ニ	710	A	G	外		
TX 201・221・241・240	1	イ	ニ	600	A	G	外		
TX 261・281ロプス TX 260・280ロプス	1	イ	ニ	630	A	G	外		
TX 281Q・301・321 TX 280Q・300・320	1	イ	ニ	710	A	G	外		

点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品使用始め	ギヤーケースのオイル量の確認	13
新品1時間使用后	各部のボルト、ナットを増し締め	13
新品50時間使用后	ギヤーケース、チェンケースのオイル交換	19
毎日の作業前	①ギヤーケース、チェンケースのオイル量、オイル漏れの点検	13～14
	②タバコ刃の取付ボルトの増し締め	14
	③ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	19
	④地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	14
毎日の作業後	①洗浄後、水分拭き取り	19
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	13
	③タバコ刃の摩耗、折損の点検	18
	④入力軸へグリス塗布	19
	⑤ジョイントスプライン部へグリス塗布	19
	⑥可動部へ注油	19
150時間毎又は シーズン終了後	①ギヤーケースのオイルシール、パッキンの異常点検	20
	②ギヤーケース、チェンケースのオイル交換とオイルシール、 パッキンの異常点検	19～20
	③サポートハウジングのグリス交換、オイルシールパッキンの異常点検	20
	④ジョイントのシャフトへのグリス塗布	19
	⑤安全ラベルの剥がれの点検	
	⑥無塗装部へのサビ止め	
	⑦消耗部品の早期交換	

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤ ケース	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤの損傷	ギヤ交換
		ベベルギヤのかみ合い不良	シムで調節
	オ イ ル 漏 れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		液体パッキンの劣化	液体パッキン塗り直し
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
ベアリングの損傷		ベアリング交換	
チェン ケース	異 音 の 発 生	チェーンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	軸付きシール、Oリングの劣化、損傷	軸付きシール、Oリングの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換

本体各部	症 状	原 因	対 策
耕うん軸	異 音 の 発 生	軸受け部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		取付ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		タバコ刃の変形によるカバーとの干渉	
	振 動 の 発 生	耕うん軸の曲がり	軸交換
		タバコ刃、軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		タバコ刃の配列不良	爪配列の点検
		タバコ刃の摩耗、折損	タバコ刃の交換
	軸 回 転 不 良	チェンの折損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
		ギヤの折損	ギヤ交換
	オ イ ル 漏 れ	軸付きシールの損傷	軸付きシール交換
		パッキン、Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
	残 耕 の 発 生	タバコ刃の摩耗、折損	タバコ刃の交換
		タバコ刃の配列不良	タバコ刃の点検
ジョイント	異 音 の 発 生	グリス切れ	グリスアップ
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
	た わ み 発 生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

クリーブ

超低速の作業速度

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報をご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202